

帰り道

森 絵都 作

課 物語を読んで、同じ出来事に対する二人のとりえ方や
心情を確かめよう。

この物語は、「律」と「周也」のそれぞれの視点から書かれた
1と2の二つの段落から構成されています。同じ出来事に
対するそれぞれのとりえ方や心情を確かめよう。

場面	1の段落 律の視点	場面	2の段落 周也の視点
P.18 L2 ?	・周也との帰り道を、はて しなく遠く感じる。 ・いつもと変わらない周也の 姿に、落ち込みが増す。 ・昼休みの出来事を思い	P.25 L2 ?	・必死で話題を振るも、 無言の律に焦る。 ・律の怒りを実感し、昼休み の出来事を後悔する。 ・壁のように黙る律を前に

P.22 L14 ?	P.22 L1 ?	P.20 L8 ?	P.19 L13 ?
・黙ってうなづく周也に、自分 の思いを分かってもらえた気 がした。	・消えていく。 ・みぞおちの異物が荒い流され じろ。	・思い込んでいることをうまく言葉 にできないと思ひ悩む。 ・周也との距離が開き、みぞ おちの辺りが重くなる。 ・天気雨に初夏のにおいを感じ る。	・返し、落ち込み続ける。 ・失のどがたものがみぞおちの 辺りにずきりとささったまま。
P.29 L3 ?	P.28 L7 ?	P.27 L5 ?	P.26 L4 ?
・律の言葉を受け止めた実 感があいた。	・水玉がピンポン球に映る。 ・律と笑い合えた喜びに大声 をあげる。	・沈黙と公園の静けさに耐え られなくなる。 ・律のよゆうと自分にはない、 落ち着き、ふりに見入る。	・自分の言葉がピンポン玉の ように軽すぎることを感じ 悩み始める。 ・沈黙と公園の静けさに耐え られなくなる。